

# 現在の我々にはシュリンゲンジーフが足りない!!

『ドイツチェーンソー大量虐殺』や『ユナイテッド・トラッシュ』などで、日本ではカルト映画監督として名が知られているクリストフ・シュリンゲンジーフ。8歳にして8ミリカメラを手にし、カルト映画作家としてのフィルムグラフィーを築いた彼は、やがて演劇やテレビ番組制作そして社会的アート・プロジェクト、または社会的弱者のための政党結成など活動を大きく広げていった。アフリカでのオペラハウス建築を計画中の2010年、惜しくもこの世を去ってしまったシュリンゲンジーフ。制作途中だった2011年のヴェネチア・ビエンナーレ展示作品は、その年の金獅子賞を受賞。日本未公開の映像作品や、彼のパフォーマンス、TVショーなど、シュリンゲンジーフの幅広い活動を横断的に上映する。

昨年話題となったイメージフォーラム・フェスティバル2018での特集上映「挑発する生 クリストフ・シュリンゲンジーフ」時のセレクションに加え、日本公開作品『ユナイテッド・トラッシュ』も上映!!

シュリンゲンジーフの映画は、我々にいかなる教えも、分析も、啓発も与えない。とはいえ、彼の作品は奇妙なかたちで我々に作用する。新世代のナイーブでワイルドな人間シュリンゲンジーフは、虚飾に満ちた、味けない乱暴な死の舞踏を仕立てて、我々の顔から笑顔を剥ぎ取る。悪の凡庸さが、見世物となるのだ。——ヴォルフガング・ロート

名声より居心地悪さを。映画、演劇、オペラ、TV番組、選挙運動、街頭で観客の良識に挑戦し攪乱し続けたシュリンゲンジーフ。トラッシュ+ポップ+アートが一体となり、エモーショナルに心に迫ってくるシュリンゲンジーフ作品の大特集。

企画・配給——シアター・イメージフォーラム(タケレオ出版) 協力——ゲート・インスティテュート東京

## アドルフ・ヒトラー100年——防空壕での総統の最後のひととき

地下壕でのヒトラー最期の数時間を描く、暗闇の狂騒  
100 Jahre Adolf Hitler (Die letzte Stunde im Führerbunker)  
第二次大戦から残る実際の塹壕を使用し、完全な暗闇の中18時間ぶっ通しで撮影された本作では、撮影が終わるまで俳優陣、スタッフともに外に出ることが一切許されなかった。真っ暗闇の中、監督が手に持つ懐中電灯だけが第三帝国崩壊時のカオスを照らし出す。短編作品『エリーゼのために』(2分 / 1982)を併映。



## ドイツチェーンソー大量虐殺

“彼らは友人として来訪し、ソーセージになった……”  
——シュリンゲンジーフの東西ドイツ統一に対する回答  
Das deutsche Kettensägenmassaker  
1989年11月、東西ドイツの国境が開放され、多くの東ドイツ人が西ドイツへと流入した。しかし、彼らの4%は旅半(はては)で方向不明となっていた……。トラッシュ・ホラーの体裁をとりながら、自由経済社会を肉市場に見立てて1990年の東西ドイツ統一への強烈な皮肉とした、シュリンゲンジーフの出世作。今回にあわせてHDデジタルリマスター版を上映。



## テロ2000年——集中治療室

「ドイツ3部作」、邪悪・変態での集大成  
Terror 2000 - Intensivstation Deutschland  
「ポーランド野郎を殺せ」。家具店のオーナーと司祭に扮したネオナチ二人組が、住民を組織し外国人移民を抹殺、民族浄化を目指す。そこへ難民殺害事件を捜査中の狂った刑事二人がやってきて、大騒動へと発展する……。現在のヘイト社会の戯画としても有効な“政治的に全く正しくない”バイオレンス抗争劇。『アドルフ・ヒトラー』、『ドイツチェーンソー大量虐殺』に続くシュリンゲンジーフ「ドイツ3部作」最終章。HDデジタルリマスター版上映。



## ユナイテッド・トラッシュ

バッドテイストの巨匠シュリンゲンジーフ、アフリカへ  
ジンバブウェに派遣されたドイツ国連軍総司令官ブレナー(ウド・キアー)の妻マルタ(キトゥン・ナティウイダット)が処女にして横胎、生まれて来たのは黒い肌の小人だった。救世主に祭り上げられたその子供を、現地の独裁者はアメリカのホワイトハウスに打ち込むための人間爆弾に仕立て上げようとする……。ゴミと愛と憎しみと「政治的に正しい」人たちの生き残り、TVニュースと太鼓と叫びを混ぜ合わせ、リーフェンシュタール風味を少々ふりかけて作り上げたミュージカル。HDデジタルリマスター版上映。

United Trash  
▶クリストフ・シュリンゲンジーフ  
▶共同脚本 - オスカー・レーラー ▶出演 - ウド・キアー、キトゥン・ナティウイダット、トーマス・チフウェ他 ▶35ミリ、デジタル版上映 ▶71分 ▶1995-96(ドイツ)



## ボトロップの120日

ドイツ映画の破壊と再生を試みる、日本未公開劇映画作品  
Die 120 Tage von Bottrop  
ファシスター映画の常連俳優の生き残りたちが、“最後のニュージャーマン・シネマ作品”を制作するため再結集。バゾリーニの『ソドムの120日』のリメイクをするというのだ。しかし監督のシュリンゲンジーフは降板させられ、資金繰りに困ったプロデューサー(ハリウッドにエージェントを送り込む……)。

▶クリストフ・シュリンゲンジーフ ▶出演 - マルク・カールステンセン、イルム・ヘルマン、フォルカー・シュベントラー、ヘルムート・バーガー他 ▶16ミリ、デジタル版上映 ▶60分 ▶1997(ドイツ)



## フリークスター3000

“普通”とは何か? 通常の常識を超えた最強のスター誕生  
Freakstars 3000  
知的障害者・身体障害者の参加者たちが、厳しい審査の末に、バンド“ネジを探す母”のメンバー7名に選ばれるまでを追ったスター誕生ショー。本作はドイツの若者向けチャンネルVIVAの最大人気となったテレビ番組の映画版である。これは“やらせ”それとも“ドキュメンタリー”? “社会的弱者の参加”か、“アートの名の下に行われる搾取”なのか?

▶クリストフ・シュリンゲンジーフ ▶出演 - アヒム・フォン・バチェンスキー、イルム・ヘルマン他 ▶デジタル ▶75分 ▶2003(ドイツ)



## 友よ! 友よ! 友よ!

ジャンキー、ホームレス、売春婦、障害者……  
——普段社会からのけものにされている人々を巻き込んで展開するシュリンゲンジーフが行なったパフォーマンスの記録  
Freund! Freund! Freund!  
ハンブルク・ドイツ劇場の制作委嘱を受けたシュリンゲンジーフは、劇場の舞台から飛び出し、麻薬常習者や売春婦、ホームレスの住処となっていたハンブルク中央駅前にある建物を彼らのために開放し、7日間行動をともにする。報道陣や警察、救世軍の人々を巻き込み、街頭デモや公開討論、茶会や社会科学などが行われた様子のドキュメント。

▶アレクサンダー・クラセック ▶シュテファン・コリント ▶出演 - クリストフ・シュリンゲンジーフ、花代他 ▶デジタル ▶73分 ▶1997年



## 外国人よ、出て行け!

メディア市民が激怒! 激しい論争を巻き起こした伝説的アクションの記録  
Ausländer Raus! Schlegensiebs Container  
ある日、ウィーン歌劇場前にコンテナがいくつも設置される。そこには12人の難民申請者が入れられ、監視カメラで内部の映像が24時間ウェブ上に流される。毎晩ウェブ投票が行われ、視聴者の決めた2名が、コンテナから出され国外追放となる。最後に残った1名のみが、晴れてオーストリアの滞在許可を得られるのだ。反移民の極右政党が政権入りを果たした2000年のオーストリアを舞台に、シュリンゲンジーフが行った社会的パフォーマンス/アート・テロリズムの記録。

▶ハウル・ボエツ ▶出演 - クリストフ・シュリンゲンジーフ他 ▶デジタル ▶90分 ▶2002(ドイツ - オーストリア)



## U3000

運行している最中のベルリン地下鉄7番線を舞台に放送された反=テレビ番組シリーズ  
U3000  
映画や舞台、アートのアクションへと活動を広げていたシュリンゲンジーフは政党を結成、テレビ出演も多々行い、ドイツの文化的言説に影響を与える中心人物の一人となっていた。テレビ番組というフォーマットを借りて、既存のテレビ概念を内部から破壊しようと試みたシュリンゲンジーフによるTVシリーズ。2000年から2001年にかけて放映された大きな話題を呼んだ。

▶エピソード2 ヨーゼフ・ボイス・インド(35分 / 2000年) ▶エピソード7 アフリカ(29分 / 2001年) ▶クリストフ・シュリンゲンジーフ ▶デジタル ▶計64分 ▶2000-2001